

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

突出した人間を作ること 遠藤 功 (早稲田大学ビジネススクール教授)

1. 私は日本企業が総崩れだとは思っていません。ダメな企業とそうでない企業に 2 極化しているということです。実際、厳しい環境にもかかわらず、最高益を上げている企業、成長している会社もあります。日本の企業が全部ダメというわけではありません。この時代環境の中で国の成長に依存し、それに乗っかっているだけの会社はダメになっていきますが、自分で成長や需要を作れる会社はどんな環境にあっても生き延びられる。成長創造型の会社しか勝ち残れない環境にいるわけです。
2. 現象面で現状を見ると、大規模会社はダメで、中堅企業は比較的元気。実は、これは偶然ではありません。数千億円、数百億円規模の会社なら日本人のリーダーでも回せます。しかし、数兆円規模の会社になると普通の日本人のリーダーでは回しきれない。
3. 日本でリーダーシップ教育を重視してこなかったのは事実でしょう。きちんとした実務家を育てることはしてきましたが、実務家は必ずしもリーダーではありません。だから、実務家としては何とかありますが、リーダーのポジションになるとダメになってしまう。つまり突出した人間を作ること嫌がってきたのです。

(参考:「日経ビジネス」2013年2月11日号)

ワンポイント経営アドバイス

電機復活の 5 つの提言

1. 不名誉な日本記録。2009 年 3 月期に日立製作所が計上した 7873 億円の最終赤字は、日本の製造業として過去最大の赤字でいまだ破られていない。しかし、その後、日立が勢いを取り戻したのに対し、パナソニック、ソニー、シャープは巨額赤字に苦しんでいる。
2. 現在の苦況から脱出するための「電機復活の処方箋」として、次の 5 つを提言したい。①花形事業に固執しない。テレビ、スマホは撤退も。②たとえ利益が出ていても、ノンコア事業は切り捨てる。③主導権にこだわらず、大きな再編に踏み出す。④ハードの切り売りから、サービス中心の商売へ。⑤「いいモノなら売れる」という品質神話から脱皮する。

(参考:「週刊東洋経済」:2013年2月2日号)

海外事業

期待される市場はフィリピン、トルコ

1. 主要新興国の過去 1 年 (2013 年 2 月 22 日までの 1 年間) の株価指数上昇率ランキングで見ると、BRICs (ブラジル、ロシア、インド、中国) の次なる成長国として注目される「ポスト BRICs」諸国が上位に並ぶ。
2. タイやフィリピンなど東南アジア諸国が複数ランクインしたほか、アフリカ勢やトルコも好調だ。中南米から唯一メキシコが食い込んでいる。一方、BRICs はそろってトップ 10 圏外となっている。昨年、アジアで特に投資家の関心を集めたのがフィリピンだ。株価は過去 1 年で 35% 上昇し、過去最高値を更新し続けている。中近東ではトルコ株が過去 1 年で 24.7% の上昇を見せた。

(参考:「週刊エコノミスト」2013年3月12日号)

古典に学ぶ

道はうつろだが

「道は沖なれどもこれを用うればあるいはみたず。淵として万物の宗に似る。その鋭を挫き、その粉を解き、その光を和し、その塵に同じくす」(解説) 道はうつろで、「無」としかいいようのないものではあるが、そのはたらきは無限である。深遠で、万物はその奥底から湧き出るかに見える。限定せず、限定されず、すべての対立を超越する。万物を包摂し、万物と一体である。漠として、あるかなきかの存在である。「道」は、何から生じた物でもない。それは、万物を主宰する力の根元としかいえない。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)